

たたら製鉄を再適用した 奥出雲地域の水管理及び 農林畜産システム



世界農業遺産
令和7年8月認定
日本農業遺産
平成31年2月認定

島根県奥出雲地域

奥出雲地域は、日本古来の製鉄法「たたら製鉄」の原料である砂鉄を採掘するため、山々を切り崩し、その跡地を棚田に再生しました。痩せた土地でソバを栽培し、役牛の糞を利用した堆きゅう肥で土づくりを行い、稲を栽培して食糧を増産しました。現在、奥出雲では、たたら製鉄を通じてつくられた農地、水路やため池を利用管理し、森林資源の利用、耕畜循環による土づくりなどの知識技術を受け継ぎ、資源循環型農業を行っています。



農業基盤として再利用



鉄穴流し
(かんながし)
かつて山を切り崩して砂鉄を水流により比重選鉱した。



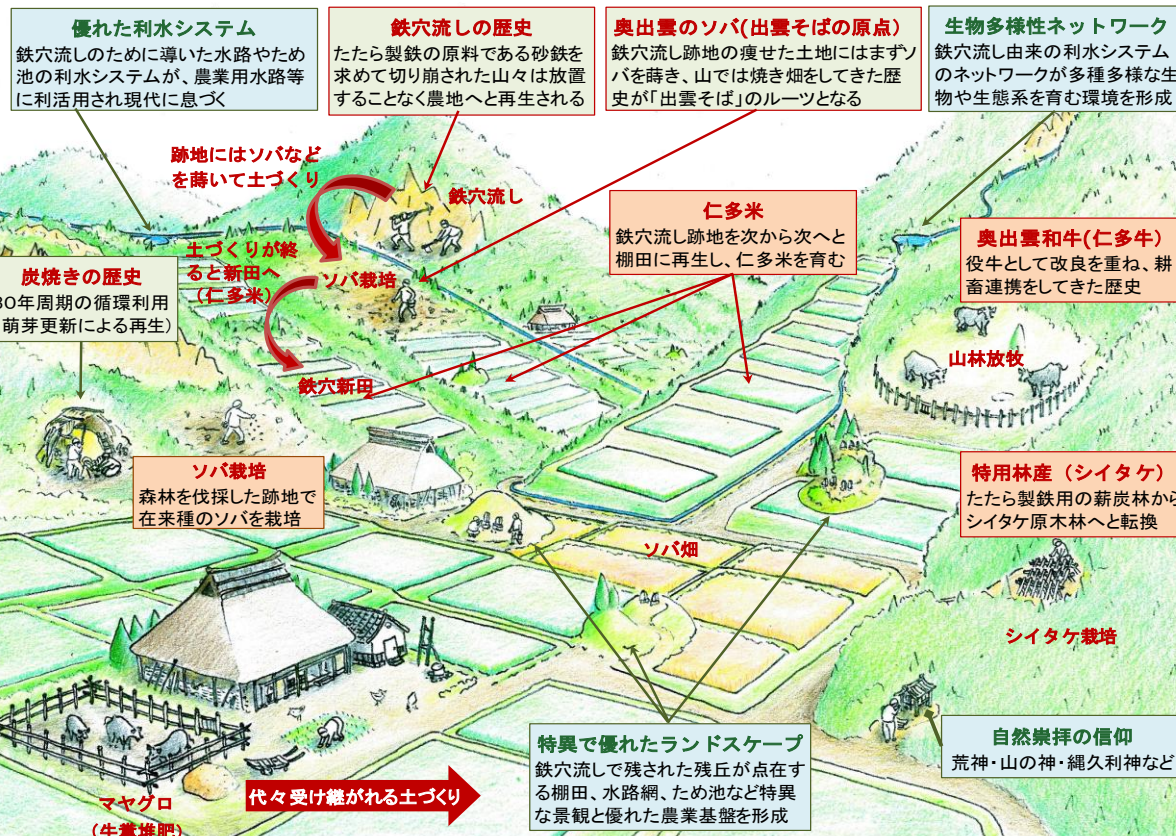
水路(井手)
砂鉄採取のために導いた水路は農業用に再利用された。



ため池(堤)
谷川の水を集めて貯水し、安定的な水利を可能にした。



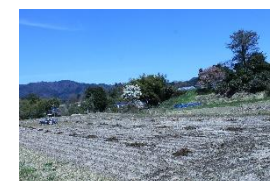
棚田
砂鉄鉱山跡地に拓かれた広大な農地に水が行きわたる。



資源循環型農業

資源循環型農業

和牛の飼養により畦畔草地の利用、和牛堆肥を施用した土づくりを受け継ぎ、持続性の高い耕畜連携の農業が営まれてきた。



森林の循環利用

現在も森林での製炭、キノコの原木利用、建築用材として循環的に利用し、保全している。



固有の農業景観

鉄穴残丘の小山が点在し、墓地や神木、祠が祀られている。



日本農業遺産認定後の活動と効果

たたら製鉄とともに育まれた循環型農業

～自然と共生した農林業を未来につなぐ～



砂鉄鉱山を起源とする棚田と水路網の継承

稲作、和牛、森林利用による複合的農業
(仁多米、奥出雲和牛、ソバ、キノコ等の栽培)

地域資源を循環利用する農林畜産業
(森林の循環利用、耕畜連携の循環型農業)

<情報発信の取組>

- ❑ 農業遺産ロゴマークを農産品に貼付した販売促進・PR（R元年7月から開始）
- ❑ 「日本農業遺産のまち」として ポスター、チラシ、新聞広告、ホームページ等で発信
- ❑ 農業遺産プロモーションビデオの制作、動画配信による情報発信

観光・交流・地域活動

都市農村交流の促進

- ・農泊の取組は令和元年6月にスタート。農泊の施設予約や体験活動の募集受付を町観光協会が行い、利用者が増えている。田舎暮らし・農業体験ができるメニューを増やして、棚田の米づくり体験、郷土食のそば打ち、もちつきなど体験型・滞在型の観光客が増えつつある。
- ・新そばの時期は町内の蕎麦店に行列ができるなど、秋の紅葉にあわせ観光客で賑わう。
- ・在来種の「横田小そば」、「猿政小そば」の作付奨励を行い、遺伝資源を保存している。



棚田ライトアップイベント
たたら灯籠（追谷集落）



米づくり
体験



そば打ち
体験

<活動の効果>

- ❑ 地域住民主体（追谷集落）による棚田ライトアップイベントを継続して開催
- ❑ 農泊施設：1施設（H30）→6施設（R7）、うち宿泊者数（6施設合計）：975人（R5）→1132人（R7）
- ❑ 「新そば祭り」（H17～R1）をきっかけに、そば処として定着

農業振興・ブランド化

ブランド育成、高付加価値化による農業振興

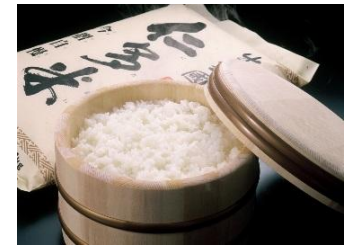
- ・「仁多米」、「奥出雲和牛」、「ソバ」、「キノコ類」の4品目を中心にブランド化を推進。奥出雲町ふるさと応援寄附の返礼品として農産品の利用実績を伸ばしている。

担い手の育成・農業支援策

- ・新規就農者や後継者の相談・サポート体制を構築。中山間地農業を支える集落営農組織の支援や第3セクターの農業支援を継続実施。

<活動の効果>

- ❑ ふるさと応援寄附額：1.7億円（H28）→7.7億円（R6）
- ❑ 集落農業を守る集落営農組織数70組織：現状維持



教育・文化の継承

ふるさと教育の推進（たたら学習・農業体験）

- ・町内小・中学校の出前授業や子どもたちのふるさと学習として、たたら体験学習や農業体験、伝統文化に触れ、郷土の愛着心を育てる教育を学校と連携して実施している。

地域の産業・歴史文化の理解促進

- ・農業遺産に関する内容や地域の歴史文化を地域住民、農業者が理解を深めるため、パネル展示等で紹介している。

農業遺産パネル展示の様子



<活動の効果>

- ❑ 町内全小学校の6年生が鉄穴流しによる砂鉄の採取、燃料である木炭の製造作業やたたら操業体験を通じて、たたら製鉄の優れた技術、棚田の成り立ちなどを学んだ。
- ❑ 農業遺産に認定された内容をパネル等で紹介展示し、町内外のイベントで啓発した。



小学生による鉄穴流し体験（島上地区）



地元高校生による仁多米のハデ干し体験